

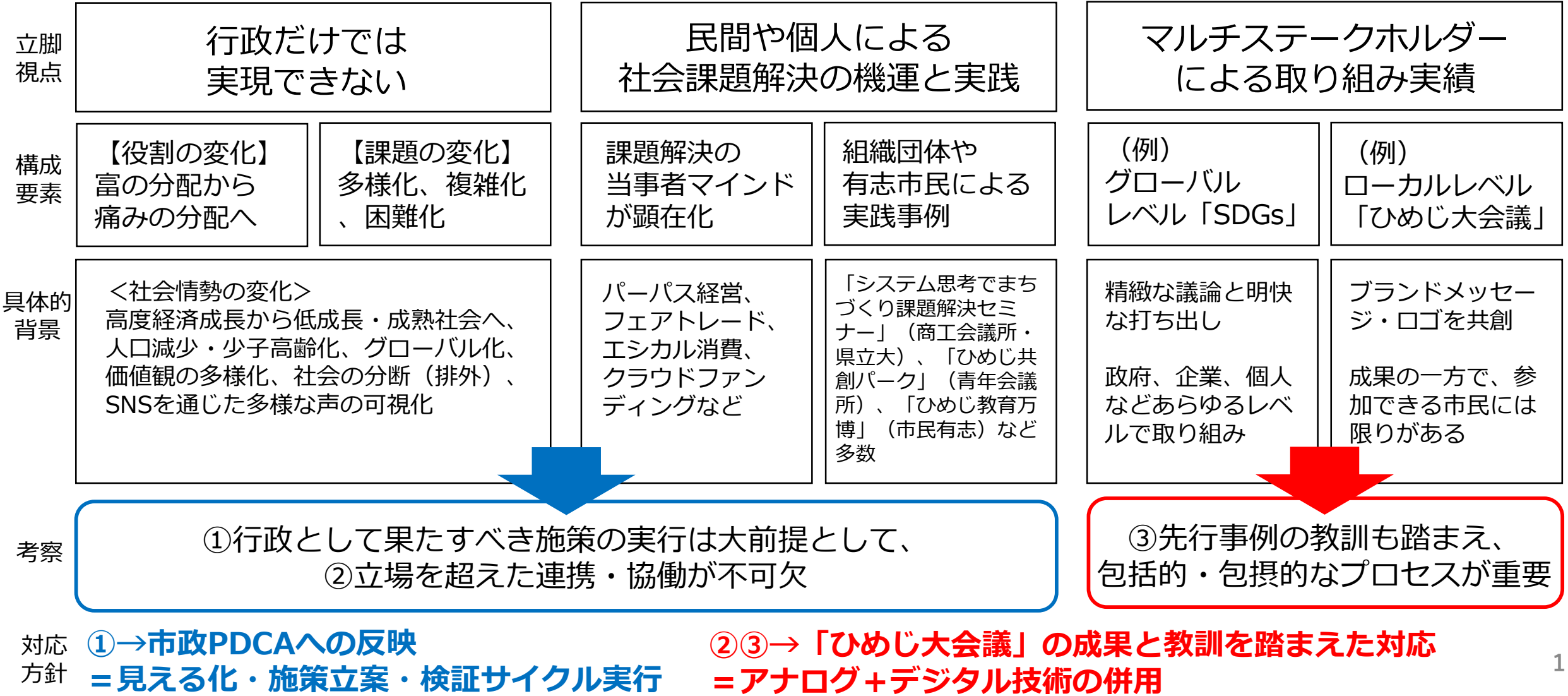
あらゆる主体との連携に向けた具体的手法の検討について

教育大綱フォローアップにおける基本的な考え方

「**教育大綱の理念**を実現するためには、
あらゆる主体による連携・協働が必要」

教育大綱ビジョン ※「はじめに」より抜粋

- ・ 予測困難な時代を生き抜く力を身に付ける
- ・ 誰もが取り残されず幸せ・生きがいを実感
- ・ 社会全体が豊かさを感じられるものとなる



アナログとデジタル技術を併用した新たな仕組み（試案）

目的：教育に関するあらゆる主体（市・民間団体・市民）の連携・具体的アクションを促進
手段：①デジタルで裾野を広げ（広報・広聴DX）、②リアルで深める（市民参加型プログラム）

従来の市民参画・広聴

市民参加型の会議
パブリックコメント

- 課題
- ・施策や情報が点在し、**全体像が見えない**
 - ・対話の質的・量的に**市民の参加に限界がある**

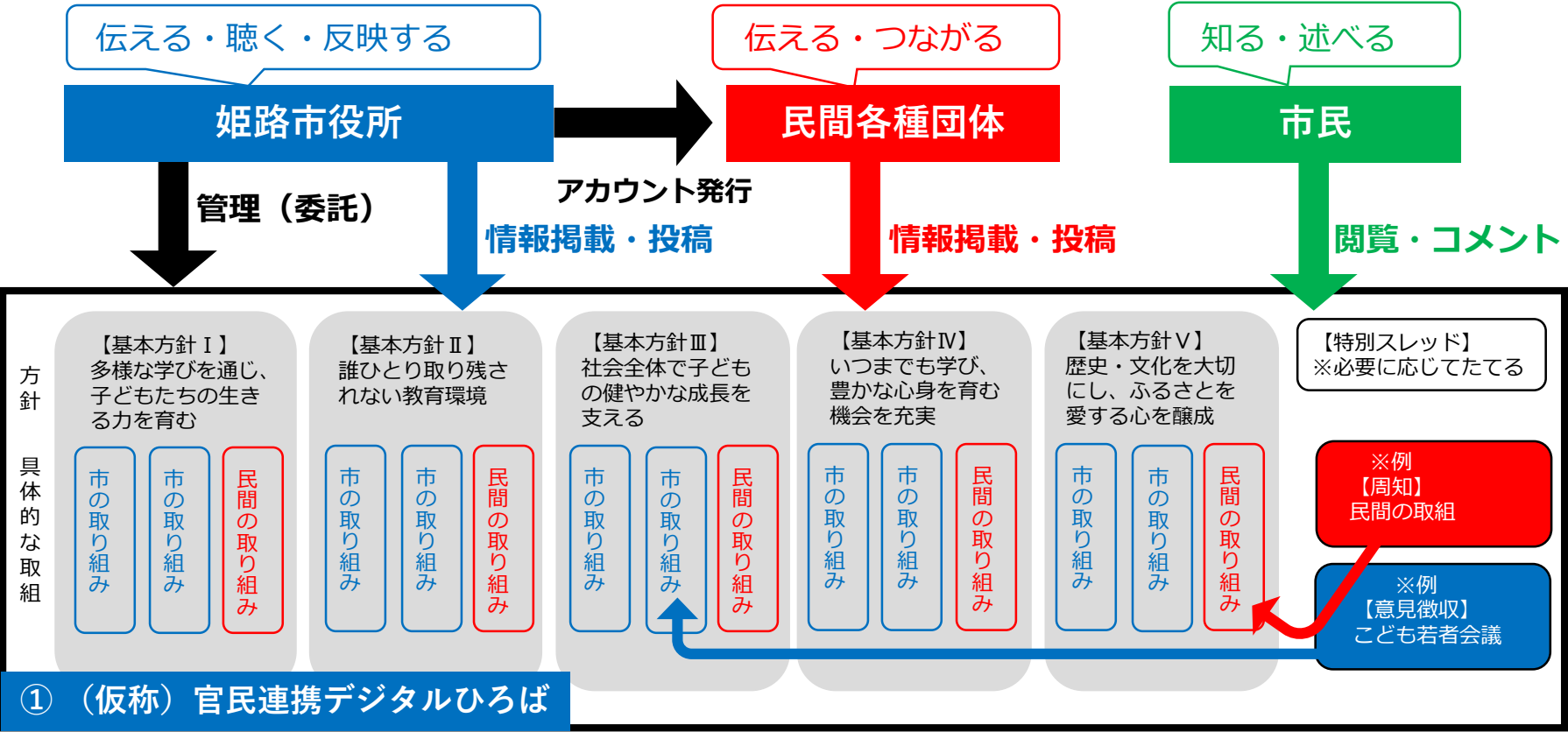
①**広報・広聴DXで改善**

- ・教育大綱をハブに**全体像が見える化**
- ・生成AIで意見の集約・可視化も可能
- ・いつでも誰でもアクセス可能な包摂的プロセスで**市民参加の“実質化”**



②**リアル会議の意義・役割（継続）**

- ・対面のコミュニケーションで**信頼関係の構築・熱量の醸成**
- ・対話を通じた**共通認識の言語化**
(ex:行政への要望集めが目的ではない旨)



②市民参加型プログラム

【年度前半】キックオフ
事業説明と対話（官民の役割）

※例
こども若者会議

※官民それぞれのニーズに応じて自主的に開催

※例
民間の取組

【年度後半】振り返りと展望
事業報告と対話（成果と課題）

本事業を通じた行動変容イメージ

